

タイトル	著者名	内容紹介
<p>第172回直木賞候補作</p> <p><b>秘色の契り 阿波宝暦 明和の変韻末譚</b></p>	<p><b>木下 昌輝</b></p>	<p>「改革で大切なのは、人の心を変えること！」三十万両もの巨額の借財を抱える徳島藩。藩制改革を担ったのは、型破りな人物だった。</p>
<p><b>孤城春たい</b></p>	<p><b>澤田 瞳子</b></p>	<p>備中松山藩(現・岡山県高梁市)にて、陽明学者・山田方谷は、借財10万両を抱える藩の財政を司る元締役とその補佐役である吟味役の兼務を命じられる。</p>
<p><b>桜が散っても</b></p>	<p><b>森沢 明夫</b></p>	<p>忠彦にとって「第二の故郷」桑畑村で、自身が勤める建設会社がリゾート開発を進めていることを知る。不器用ながらも自分の信念を貫いた男と、その家族の絆を描いた感動の物語。</p>
<p><b>青い絵本</b></p>	<p><b>桜木 紫乃</b></p>	<p>絵本作家として活躍する高城好子はかつて美弥子の継母だった。漫画家のアシスタントを生業とする美弥子は、ある日、再会した好子が余命幾ばくもないと悟る。</p>
<p>第34回鮎川哲也賞受賞作</p> <p><b>禁忌の子</b></p>	<p><b>山口 未桜</b></p>	<p>救急医・武田の元に搬送されてきた自身と瓜二つの溺死体。彼はなぜ死んだのか、なぜ同じ顔をしているのか。「俺たち」は誰なんだ。</p>